

解 説



教育・研究機関における品質工学の展開 2017

—人間力をどう測る?—

Development of Quality Engineering at Academic Research Institutions 2017 — Is Personality Measurable? —

水谷 淳之介*

Junnosuke Mizutani

山本 桂一郎*

Keiichiro Yamamoto

早川 幸弘*

Yukibihiro Hayakawa

第17回品質工学会学校関係者懇談会

開催日 平成29年6月21日(水)

場 所 品質工学会事務局会議室

主 催 品質工学会学校委員会

出席者 (五十音順)

青木 昭夫 帝京大学
 飯田 孝久 慶應義塾大学
 上杉 一夫 上杉技研
 久米原宏之 (一財)ものづくり研究機構
 五味 伸之 福井工業高等専門学校
 高田 圭 信州大学(セイコーエプソン)
 植原 弘之 九州工業大学
 早川 幸弘 富山高等専門学校
 矢野 耕也 日本大学
 矢野 宏 応用計測研究所
 山本桂一郎 富山高等専門学校

(司会) 水谷淳之介 富山高等専門学校

1. すぐに役立つものはすぐに役立たなくなる

司会 学校関係者懇談会は毎年研究発表大会の前日に開催している。今回は第17回目となる。まず今回初めて参加された方に伺いたい。飯田氏は品質工学会初期の頃からの会員であるが、これまで大学ではどのように品質工学に取り組んでいるのか。

飯田 私は1年半前に大学を退職している。統計が専門で直交実験を行っており、実験計画法との接点

で品質工学を始めた。所属は管理工学科だったので、学生が目指すのは「ものづくり」ではなく、就職先も金融関係などの方が多い。そういう意味で学生はものを作る人のための実験計画法は興味が無い。統計とか実験計画法はものづくりに直接役に立つというものではない。私は普通の実験計画法を教えていた。教育研究のテーマは実験計画法・品質管理で、特殊な世界だ。品質管理で論文を出しているが、誤差因子に対して頑健であるというのは大切であるということを教えたいと思っている。

久米原 金融と品質工学、新しい切り口だ。実際に学生には何を教えているのか。

飯田 はじめに学部長が「すぐに役立つことをやるとすぐに役立たなくなる」と言っている。つまり、あまりにも現在に特化したものをやってしまうと、変化があったときについて行けなくなる。そこで私は変化が起きてもそれに追従していける、本当に大事なものは何かという観点でやっている。品質工学にしても品質管理にしても、今に特化しすぎないで基本的な考え方を教えることを念頭に置いている。

矢野(宏) 今日は企業から上杉氏にも参加いただいている。学校で実践する品質工学をどう見ているか。

上杉 学科の教科として品質工学を導入する際の一番のネックは、品質工学はものづくりに必ず必要なものだ、ということが認識されていないということだ。例えば機械工学を学ぶ者は材料力学の勉強が必ず必要となる。これがなければ設計はできないということが当たり前になっている。しかし品質工学はやらなくても済んでしまっている。本当はそのため

* 富山高等専門学校